



▲前列左端が若野

## ユニー 若野 直樹

交渉するも、変更は叶わず。若野は、会社や元請企業との間に立ち、意見の相違に苦しみ、精神的にも負担を感じていたという。

しかし2023年12月にM&Aが実現したことで、5名ほどだった作業員を、最大20名まで増やすことができ、作業スピードがアップした。また、人手が増えただけではなく、こちらの要望通りに現場に適した技術をもった作業員を配置してくれたため、作業をより効率的に進められた。通常約1年かかる作業に対して、この案件は



▲手前の作業者が若野

工事名	北上市北上工業団地終末処理場汚泥処理設備工事
対象箇所	施工状況写真 汚泥処理設備
状況説明	No.2濃縮汚泥掻き寄せ機
受注者	メタウォーター 小泉建設特定建設共同企業体

半年以内という厳しい工期が設けられていたが、結果的に予定よりも早く完遂することができた。「工事が終わった瞬間は、感激しました。人手が十分にあることの素晴らしさを再認識できましたね。協力してくれた職人のみなさんには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです」。

**先輩社員からの言葉と仲間の存在**

若野がユニーで長年仕事を続けてこられた理由は、2点ある。1点目は、入社当時における先輩社員からのかけられた言葉だ。異業種からの転職で、知識も経験もなく苦戦しているときに「ユニーで行っている業務は、10年続けないと一人前にはなれないものだ」と励ましてくれたのだ。そこで、「よし、10年続けてやろう」と奮起し、前向きに仕事に取り組みめるようになった。

(前編の続き)

これまでには苦い失敗も経験しながら、職長としてのスキルを習得してきた若野。現在は、ベテランの職長として多くの案件を担っている。そのような若野に、仕事を続けてこられた理由や今後の展望について語ってもらった。

### グループの一員として働く魅力

長年ユニーで活躍してきた若野にとっても、2023年にさくら株式会社グループの一員になったことは、ターニングポイントだったという。一番の変化は、人員が揃ったおかげで、課題を迅速に解決できるようになったことだ。加えて、人数が増えると人間関係でのトラブルが生じることもあるが、そういったことも起きていない。そこもさくらの魅力の一つ

2点目は、仲間の存在。職場には同年代の社員が多くコミュニケーションが円滑で、人間関係にストレスを感じなかったという。周りには、「お互いに切磋琢磨して良い現場を作っていこう」というポジティブな雰囲気があった。また、一つの現場が終わると、「次も頑張ろう」と自然と前向きになれる環境のおかげで、スムーズに経験値を増やしスキルを上げていくことができたのだ。

### 無事故・無災害を目指して

今後の目標は、これからも安全第一で無事故・無災害で現場を終わらせることだと、若野は話す。これまででは人手不足が事故のリスクを高めていたが、さくらグループの一員になった現在は、適切な人員を十分に配置できる。職人にも、安心して仕事を任せられる環境が整ったため、より多くの案件

だと思っている。役員や社員はみんな親切で、ユニーの職人にも積極的に声をかけてくれるなど、日々周りからの思いやりを感じる。これからもグループ内で積極的にコミュニケーションをとり、交流を深めていきたいと考えている。また、現場での協力体制も強化し、グループの一員として発展に貢献していくつもりだ。

### さくらグループの力を結集

最近、さくらグループの力が感じられた出来事があった。それは、2023年10月から携わっていた、宮城県内にある大和浄化センターの案件だ。作業量が多い上に工期も短く、地下20メートルまで物を降ろさなければならなかった、難易度の高い作業も含まれていた。当初から人手不足に悩んでおり、工期を延ばせないかと

を手がけていきたいと考えている。

また、現状に満足せず、さらに働きやすい職場環境が作れるよう、尽力していくつもりだ。そのためにも、グループ内のコミュニケーション活性化に、積極的に取り組んでいきたいと思っている。

「私の原点は、『無災害の現場』と『全員無事に家族のもとに帰す』の2点。これらの思いは、永遠に変わることはありません」と語った若野。高い志を胸に、今日も若野は前向きに突き進んでいく。

### 企業情報

設立年：2012年4月  
年商：11.6億円  
※ 2022年3月決算時点



# 46.47号の巻頭インタビューにご登場！

## 若野 直樹 さんってこんな人！

巻頭インタビューを飾った若野さんを深掘りすべく、熊居さんと小山田さんにお話を伺いました。お二人とも「責任感が強い」と口を揃えて話した、その人柄とは……？



ユニー  
くま ひろ ゆき  
熊居 寛之さん

### 若野さんとの関係性

私の2年ほど後輩で、現場も工場も一緒です。普段は「わか」と呼んでいます。第一印象は「よくしゃべる人」。出身や好きなもの、どのようなお酒を飲んでいるかなど話しました。入社した時期が近かったこともあり、仕事を教えるというよりは一緒に覚えるという感じでした。わからないことがあれば一緒に考え、仕事の進捗状況が良くないときにはお互いに作業を手伝うなど、持ちつ持たれつの関係です。

### 若野さんを一言で表すと

#### 責任感が強い

仕事に対する責任感が強く、工期が迫っている現場では、私や他の業者の方に「土曜日は出られますか？」「残業できますか？」と声をかけ、スケジュール遵守に努めています。一方、出張先では一緒に楽しくお酒を飲むなど、オン・オフのメリハリが利いています。

### 思い出エピソード

入社した頃は細身の割にとっても食べる人でした。一緒に出張したときには、弁当や食事とは別に、「お腹が減った」と深夜の牛丼屋で大盛りを注文。彼の食べる様子を見ながら「朝ご飯も食うのになあ」と心配していましたが、朝食も普通に食べていました。1日に5～6食はとっていたと思います。

#### メッセージ

職長になって色々あると思いますが、今までと変わらず頑張ってください。血圧が上がらないよう、食事に気をつけて！

### 若野さんとの関係性

若野さんは私の上司です。第一印象はよく食べてよく動く、エネルギッシュな人。名字をとって「若」と呼んでいます。年齢は私の方が上で、若野さんからは「小山田さん」と呼ばれています。私が入社した3年ほど後に若野さんが入社したため、かれこれ20年来の付き合いです。

### 若野さんを一言で表すと

#### 粘り強くやり抜く人

今までほぼ同じ現場で一緒に仕事をしてきました。「少し手を抜いても良いのでは」という場面でも、若野さんは最後まで真直に取り組みます。そうした仕事に対する姿勢が見えるからこそ、仲間や会社から厚い信頼を得られているのではないのでしょうか。意見を交換しながら仕事をすることも多く、特に大変な現場での仕事を成し遂げたときは、大きな達成感を分かち合いました。

### 思い出エピソード

10年ほど前に、トンネルでの現場で一緒に仕事をしたときのことです。仕事が長引き、トンネルの中で夕食の弁当を食べながら「なかなか仕事が進まないね」と話しました。コウモリがいる中で食べたカツ丼の味は忘れられません。

#### メッセージ

お互いに安全第一で怪我に気をつけながら、頑張っていきましょう。今後も意見を出し合い、スムーズに仕事を進めていきたいと思っています。



ユニー  
おやまだ ひろ ゆき  
小山田 弘幸さん

# 腕 第3弾

## 鈴木さんの 凄い腕を紹介

社員一人ひとりの高い技術は、  
当社が誇る「宝」です。

今回ご紹介するのは  
勤続45年を超える鈴木さん。  
鉄板の曲げ加工が得意だと語る  
鈴木さんに、これまでの経験や  
技術を通して感じるやりがいを  
教えていただきました。

### 現在の業務内容

#### 機械設備関係と新人教育

現場で使用している機械に関する相談を受けています。故障の連絡があった際には現場へ調査に行き、経年劣化の場合は入れ替えを検討することも。社内での新人に対して、機械工具の使い方などの教育も行っています。

#### 一番得意とする技術

#### 真円の円筒に仕上げる曲げ加工

鉄板曲げ加工が得意です。途中で歪まないよう慎重に作業を進め、徐々に真円の円筒形に近づけていきます。工場での作業は直径3mのサイズが多いのですが、現場によっては直径15～20mになることも。以前、仙台にある南蒲生浄化センターでガスタンクの製作を担当した際には、およそ3か月かけて円筒に仕上げました。技術を習得するには、とにかく経験を積みしかありません。私も10～20年かけて体で感覚を掴んできました。



#### 技術力を活かし、やりがいを感じた仕事

#### 何十年も使われるタンクの製作

ガスタンクや燃料タンクは、この先何十年も使われる製品です。その製作に関わっていることにやりがいを感じています。印象に残っているのは、アスファルトタンクに携わったときのこと。工場に1か月にわたり加工を行ってきました。製品ができ上がり、いよいよ出荷。トレーラーを見送る瞬間には感慨深い気持ちになりました。

#### 若手社員へのアドバイス

#### チャレンジを続けることが大切

私もこれまで何度も失敗してきました。しかし、そこで思い詰めるのではなく切り替えることが大事。次に活かしながらか経験を重ねていくのです。皆さんも失敗を恐れずにチャレンジし続けてほしいと思っています。



ユニー 工場長  
すずき とよみ  
鈴木 豊巳さん